

東京ヴェルディバレーボールチームのビジネスプラン構築

スポーツクラブマネジメントコース

5007A306-5 伊奈弘人

研究指導教員： 間野義之准教授

■日本バレーボール界の現状

現在の日本バレーボール界の現状について、その現状と今後の方向性の示唆。近年 10 年間での休廃部数の増加傾向について述べ、現在増加傾向中である、企業依存からは独立したクラブチームについて注目しそのあり方について検証する。

■東京ヴェルディバレーボールチームの誕生から現在に至るまで

ここでは、東京都世田谷区を中心とした教員バレーボールクラブが東京都教員クラブを経て、2001 年東京ヴェルディバレーボールチームへと移り変わり、現在に至るまでのチームの活動状況、運営状況について検証する。

教員クラブを前身とした、単独的、純粋クラブチームとして V1リーグ（現チャレンジリーグ）への挑戦と、現在の活動状況における課題点、改善点を上げ、クラブチームのあるべき姿について検証、提案したい。

チームとして抱える課題は大きく分けると全部で 4 点。第一に、チーム構成員の確保。第二に、活動拠点（活動場所）の確保、第三に活動、運営資金の確保、第四に事業計画・年間活動計画のないこと。があげられる。これらの問題については、今後も増加していくであろうクラブチームについて切り離すことの出来ない問題ととらえ、この問題解決について、東京ヴェルディバレーボールチームをモデルとして検証してゆく。

■クラブチームのビジネスプラン（事業計画）

これらの課題を中心に、クラブチームを運営していく際に留意すべき諸問題を検証し、また他のチーム（企業依存型チーム、クラブチーム双方含む）との比較を基に、運営計画書を検証し作成する。

組織として活動するにあたり、非常に大切なミッション・ビジョンはじめ、クラブ概要、中期的目標、計画の立案また、チームについて第三者的にチームのある

べきポジショニングについて、市場のニーズに照らし合わせた適切な位置づけができているのかを検証し、クラブチームとしてあるべき姿について導き出したいと考える。

■活動拠点について

ここでは、現状の都内学校施設の借用スタイルから、新たな拠点確保策について検証する。

新たな形としては、①現状の学校施設の借用数の増大、②公営体育施設の施設管理者との連携検討案、③チームの NPO 法人格取得による公営体育施設の視点管理者制度の活用について検討の 3 案で検討してゆきたい。

現状のチーム状況からは、早急なチーム法人格の取得による指定管理者制度の利用は容易ではないため、現状に即した施設対策を検討していく。

■チームプロモーションについて

東京ヴェルディバレーボールチームとして、(株)日本テレビフットボールクラブ（以下 NTVFC）との連携をより強固なものとし、チームプロモーションを手掛けていくことを検討したい。Jリーグ百年構想に沿った中から誕生しているチームでもあるため、より社会に受け入れられるべく活動は継続していくのだが、効率的運営にはやはり、NTVFC との連携は不可欠である。現状は別法人としての活動、運営状態であるため、よりスケールメリットを生かしたチームの運営、プロモーションを図っていく。

■収支計画

ここでは、現状のリーグ加盟、および競技活動、普及活動、大会への参加等において発生する諸費用について検証し、今後のチームの目指すべき方向性と現在の位置づけから、最適な費用負担について、またチームの収益問題についても検証し、課題解決に向けたロジックを導きたいと考える。